

【応用栄養学】「日本人の食事摂取基準（2015年版）」で設定されている耐容上限量に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 耐容上限量は、理論的には、LOAELよりも高くNOAELよりも低い値である。
2. 耐容上限量は、具体的には、NOAELを100から1000までの適当な値で除して算定されている。
3. 耐容上限量は、不確実性を十分に見込んだ値が設定されているので、栄養素の摂取量が増加して耐容上限量に接近することを回避しようとする必要はない。
4. 耐容上限量は、健康の保持・増進、生活習慣病の発症予防を目的として設けられた指標ではない。
5. 耐容上限量を超える量の栄養素を摂取し続けたときに、健康障害が生じるまでの典型的な摂取期間は、数日～2週間程度である。

【栄養教育論】生活習慣病の予防に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 小学校の定期健康診断で肥満傾向と判定された児童に向けて、運動教室を実施することは、一次予防に当たる。
2. 健康づくりに関心のある食育ボランティアを対象に、減塩料理教室を開催することは、二次予防に当たる。
3. 特定健康診査の結果、特定保健指導の対象となった人に初回面接を実施することは、二次予防に当たる。
4. 医療機関で人工透析を受けている腎不全の患者に、食塩制限の指導を実施することは、二次予防に当たる。
5. 糖尿病と診断されて食事療法を開始する患者とその家族に向けて、食品交換表の使い方を指導することは、三次予防に当たる。

正答 ③